

【議事録】令和5年度 第1回高知マリンイノベーション運営協議会

以下、「→」の表記は委員の発言に対する県担当者の回答

■データのオープン化 PT

〈宮澤委員〉

- ・ユーザーアンケートの中でリアルタイム性を高めて欲しいとの意見について具体を教えてください。
- 黒潮牧場ブイの情報の更新頻度を、現状の1時間間隔からもっと縮めて配信して欲しいとの要望であったが、黒潮牧場からのデータ収集の頻度が1時間となっているため、即時の対応は難しい状況。
- ・過去のデータの閲覧について、現在は過去の急潮発生情報も閲覧することができない。JAMSTECの予測モデル解析に活用したいと考えている。
- 現在、過去の急潮の発生情報がデータ化できていないため、NABRAS上に掲載できていないが、今後、対応を検討していきたい。

■高付加価値化プロジェクトチーム

〈小川委員〉

- ・メジカの電子入札について必要となる情報は何か。質問の意図については、メジカ漁場予測の取り組みで尾数計数システムを開発を行っているが、尾数情報のみで重量や大きさの情報は取得できないため、そういった情報も市場に飛ばせると有益化なのではないかと考えている。
- 現在、出漁しているメジカ漁船数隻から漁獲状況を電話で聞き取りしている状況で、この部分については現行どおり進めていく予定。デジタル化の取組については、水揚げ後の効率化を目指しているところ。

■漁船漁業のスマート化 PT

○操業効率化支援ツールの開発

〈中城委員〉

- ・ツールの普及について、県が現状のエクセル版で普及することと、民間企業のサービスに組み込んだ2つの方法で普及を進めていくということか。
- その通り。県で普及を進めつつ、OIPの枠組みで連携できる企業が見つければ、民間企業とも連携して普及を進めていく。
- ・民間企業のサービスの普及に県の支援などはあるのか。
- OIPの枠組みを利用した場合は製品開発の補助制度があり、普及については漁業者への説明会など開催するなど利用に向けた支援などを想定している。

○メジカ漁場予測システムの開発

〈越塚委員〉

- ・漁場予測について、実際の釣果との予測の評価はしていくのか。
- 漁業者にヒアリングを行い評価取得を行う予定。

○二枚潮・急潮発生予測

〈益本委員〉

- ・急潮の発生について、漁業者は何日前に急潮発生の情報を知っていれば、対策が取れるのか。
- 漁業者からは 5 - 7 日程度あれば対策が取れると聞いている。

■養殖業のスマート化 PT 会

〈小川委員〉

- ・説明資料 56 ページについて、7 月 12 日に発生するという日付で予測情報が出力されるのか。
- 基準となる日から何日後に発生するという日数の情報が出力される。
- ・例えば、5 日後に発生する確率が○○%で、10 日に発生する確率が△△%といった見せ方はできるか。
- 予測に使用するデータ量が少ないため、この予測の出し方は難しいのが現状。国の研究機関は N 日後の細胞密度を示す予測手法に取り組んでいると聞いている。
- ・国の研究機関の予測情報の方が細胞数という数値で評価できる点で、より適当な方法であると考える。
- 参考にさせていただく。

■全体質疑等

〈越塚委員〉

- ・マリンイノベーションの取り組みも 4 年が経ち一定の成果も出てきている。当初計画からの達成評価や、現場実装などへと次のフェーズへと移っていけるような今後の進め方にしてもらいたい。
- ・今回の取組説明や今後の計画について、承認いただけるか。
- （全委員）意義なし。